

ベストペーパー賞・大会奨励賞 選定記

石井信明（第16回情報システム学会・研究発表大会 BP賞選定委員会 委員長）

第16回情報システム学会研究発表大会が2020年12月5日（土）に、「オンラインとオフライン融合時代の社会と人間中心の情報システム - ニューノーマルにむけて」を大会テーマとしてオンライン形式で開催され、ベストペーパー賞・大会奨励賞の2賞が選定されました。なお今大会では、例年選定されてきたベストペーパー特別賞の選定は、見送りとなりました。

【おめでとう！ 受賞者の皆様】

・ ベストペーパー賞

川合康央（文教大学）、小笠原正輝（文教大学）、開藤偉久（文教大学）、長尾 圭太（文教大学）：自動車アルゴリズム開発のための仮想市街地環境の整備

・ 大会奨励賞

高野拓海（慶應義塾大学大学院理工学研究科）：BRMSとWebサービスの連携による間接業務の自動化

【各賞選定のプロセス】

各賞は、次の手順にて選考に至りました。基本的に昨年と同様の手順ですが、今年度はオンライン開催となったため、選定と発表が大会当日から大会後になりました。

手順1（BP賞選定委員の選出）：今大会では、実行委員会により8名の委員が選出された。

手順2（論文内容確認）：各委員は、期限までに投稿された論文をダウンロードして内容を確認する。

手順3（予備評価）：各論文について、“A:是非BP賞候補としたい/B:できればBP賞候補としたい/C:A、B以外”の3段階で予備評価を行う。

手順4（各賞選定）：各委員は、論文内容と大会での発表内容を総合評価し、発表終了後に合議により委員全員が思いを共有して、各賞の該当者を決定する。

以上の手順で選ばれたのが上記の各賞です。

【各賞の特徴と注目される観点】

ベストペーパー賞では、情報システム論文としての内容、アイデアの新奇性、完成度、情報社会における有用性などが総合的に判断されます。

川合康央さんらの発表は、「オープンデータと既存のゲームエンジンを用いた仮想の都市空間環境を作成することで、安価に自動車アルゴリズム開発に必要なシミュレーション環境を構築できることを示した点に独自性がみられ、高く評価できる研究であること」、「近年、CPS（サイバーフィジカルシステム）あるいはデジタルツインの実現が産業界で進みつつあるが、それを実現する環境整備のありかたに一石を投じる可能性がある点」、などが評価されました。

大会奨励賞は、前回大会までは若手学生奨励賞と呼ばれていた賞です。これは、これからの情報システム学会を担う若手研究者の増加を期待して設けられた賞であり、若手学生の該当者として4つの条件が付されています。それらは、研究発表会当日において、「①大学に在籍中の大学生または大学院生であること（ただし、社会人の学生は除く）、②30歳未満であること、③論文の第一著者でかつ発表者であること、④提出期限までに論文を投稿していること」の全てが満たされていることです。

高野拓海さんの発表は、「RPA では実現できない、業務ルールに従った複雑な判断が必要な間接業務の自動化を扱った、広範囲に利用できる研究であること」、「今後の研究の進展により間接業務の生産性向上が期待できる研究であること」、などが評価されました。

【BP 賞の選定を終えて】

ダウンロードした論文による予備評価では、各委員の意見にはばらつきがありました。そのため、各賞の選定には困難が予想されました。実際、選定会議では、委員の間で多くの意見が交わされましたが、各賞の選定方針に従い、最終的にまとめることができました。

選定委員は全ての論文を読み、オンディマンドによる発表を視聴した上で情報を交換しました。そして、受賞論文以外の発表にも興味深い話題がたくさんあることを共有しました。ぜひとも、今回発表をされなかった方々を含め、次回大会でのチャレンジをお願いします。さらに、今回発表された方々は、論文の内容をもう一度見直され、情報システム学会誌に投稿されることをお待ちしております。

なお補足ですが、今回の発表では、論文のページ数超過、あるいは、発表時間の大幅な超過が散見されました。次回の大会に向けて、注意をお願いしたいと考えます。

以上